令和３年度　自己評価

岐阜県立大垣工業高等学校（全日制）　学校番号　２７

Ⅰ　自己評価

１　学　校　教　育　目　標	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の５項目を指導の重点として定めた。 （1）教育のプロとしての自覚と力量を高め、生徒の生きる力を着実に育成する。 （2）組織力を活かして工夫・改善を進め、教育目標の具現化を図る。 （3）地域の企業や関係機関等と積極的に連携し、地域社会から信頼される学校を実現する。 （4）安心で快適な学習環境の整備に努め、生徒の健康と生命を守る。 （5）グローバル教育を推進し、世界で活躍できる技術者を育成する。

２　評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導・国際理解教育）
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	**【生徒対象のアンケート結果】** （１）「先生は熱心に学習指導や生徒指導に取り組んでいる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ８７％(Ｒ１) → ９０％(Ｒ２) → ５３％(Ｒ３) （２）「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ８８％(Ｒ１) → ８４％(Ｒ２) → ５２％(Ｒ３) （３）「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ８７％(Ｒ１) → ８７％(Ｒ２) → ５５％(Ｒ３) ・上記は、授業に関連する生徒アンケートの３年間の推移である。今後、多くの先生方がＩＣＴを活用した授業に取り組むなど、授業改善に取り組む必要がある。 **【保護者対象のアンケート結果】** （１）「学校は、工業の専門的な技術の習得ができるような指導を行っている」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ９４％(Ｒ１) → ９１％(Ｒ２) → ７２％(Ｒ３) （２）「教職員は授業を通して学力が向上するように指導している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ８０％(Ｒ１) → ７４％(Ｒ２) → ５６％(Ｒ３) （３）「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ７９％(Ｒ１) → ６５％(Ｒ２) → ４９％(Ｒ３) ・上記は、授業に関連する保護者アンケートの３年間の推移である。教職員の学習指導への取組について、保護者の理解を十分に得られるような新たな取組や改善が必要である。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 ◇地域に開かれた信頼される学校づくり
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、工業部が連携して推進

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標

①授業改善に必要なＩＣＴ機器活用のための教育情報の提供を行う。 ②学習支援ソフトの活用研修を行い、各先生方の授業改善への活用を推進する。 ③研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会を行う。	❶生徒による授業評価の結果 ❷生徒・保護者アンケートの回答 ❸研究授業・公開授業の教員間評価 ❹研究授業・公開授業の実施件数 ❺生徒・職員アンケートの回答

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０ 評　価
①ＩＣＴ機器活用のための研修会を実施したことで、先生方の積極的な活用が進んだ。	①生徒を対象とする授業アンケートの結果	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ
②学習支援ソフトの活用研修を計画した。	②生徒・職員アンケートの結果	Ａ Ｂ Ⓒ Ｄ
③各教科・学科の研究授業や公開授業Weekを複数回実施した。	③研究授業・公開授業の教員間評価	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

11 成果・課題	○今年度も多くの研究授業や公開授業を行って頂けた。ＩＣＴ機器の整備が整い、研修会を行うことで積極的な活用が進んだ。 △授業に関連する生徒アンケートの３年間の推移において、今後、多くの先生方がＩＣＴを活用した授業に取り組むなど、授業改善に取り組む必要がある。 △学習支援ソフトの研修会について、今年度は計画のみで終わった。今後、機会の確保を考えながら、実施に向けて取り組む必要がある。	総　合　評　価 Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

令和４年度
12　重点項目
◇学習支援ソフトによる効果的・効率的な授業を研究し、各教科における重点的な取組の実現に向けて、環境整備や教育情報提供などの支援を行う。 ◇オンラインによる学習支援について、様々な方法や活用について検討を行う。
13　具体的実践内容
・学習支援ソフトの活用に関する研修会を複数回実施。 ・オンライン学習支援に活用できるような、公開授業や研究授業の実施。 ・研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会の開催。

２　評価する領域・分野	◇生徒指導（含教育相談）
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・本校の教育目標を理解し、入学後に規範意識が向上している。 ・スマホの長時間の利用により、学習などの大切な時間を奪っている。特に3時間以上使用している生徒は学習成果を見るとその傾向が顕著である。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的生活習慣の育成 ・教科、ホームルーム指導を通して倫理観や規範意識を体得させる ・交通事故防止啓発活動などを通して、危険予測能力や危機管理意識を高める ・教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする ・「いじめ」撲滅のための未然防止、組織的対応の推進
５　重点目標を達成するための　校内における組織体制	・登校時、遅刻時のルールの徹底、登校生徒状況の共有化 ・生徒情報の共有化（支援が必要な生徒情報の迅速化） ・指導、支援のマニュアル化と報連相の徹底

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
・登校指導時の交通安全、身だしなみの指導 ・各種アンケートによるいじめに対する早期の組	・前年までの統計との比較 ・いじめの早期発見と対処が出来ているか

織対応 ・支援生徒に対する外部機関との連携強化	・支援生徒の生活改善	
８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０ 評　価
・登下校時の交通安全、身だしなみの指導 ・支援生徒に対する外部機関との連携強化 ・２０分指導、遅刻指導を確実に行う ・アンケートの実施と注意喚起、早期の組織対応 ・授業規律の確立を推進するとともに授業環境を整える	①組織的にサポートできたか ②落ち着いた授業の雰囲気 ③職員間で連携が取れたか	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
１１成果・課題	・風紀委員（ＭＳＬ）を中心として『自転車の２重ロック』および『交通法規遵守』運動を行った。自転車の盗難防止の意識と、自転車マナーの向上は工夫が必要である。 ・いじめ事案については認知する感度が高まり、細かいことでも対応することができているが、早期対応というよりは未然防止のために小さな変化や、普段の生活を注視していくことと、いじめの定義と対応の共通認識が必要。 ・コロナ禍において諸症状や登校に不安がある生徒については出席停止となる措置が取られている。該当生徒の中には、欠席日数はそれほど多くないのに、出席停止と通常の欠席を足すと長期欠席となる生徒が出ているのが昨年度に続く特徴である。そこから不登校や学業への意力の低下へつながっているケースも少なくない。今後の対応について検討する必要がある。	総　合　評　価 A (B) C D

令和４年度
１２　重点項目
・自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的生活習慣の育成 ・教科、ホームルーム指導、部活動を通して倫理観や規範意識を体得させる ・交通事故防止啓発活動などを通して、マナーや危険予測能力や危機管理意識を高める ・教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする ・「いじめ」撲滅のための組織的対応の推進
１３　具体的実践内容
・登下校時の交通安全、交通マナー、挨拶、身だしなみの指導 ・見守りと情報共有による問題行動の未然防止、心のアンケートやいじめ調査の実施と早期の組織対応 ・支援生徒に対する指導方法の周知と外部機関との連携強化

２　評価する領域・分野	◇進路指導
３ 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・就職希望者は全員進路先を決め、進学希望者も大学入学共通テストを受験した者以外は、進学先を決定することができた。 ・生徒必携とビジネス手帳の統合版の「大工未来手帳」を制作し５年目となり、生徒の活用度を高めたかったが、昨年から続くコロナ禍で進路に関する行事もオンライン化したため、全体への指導が手薄となり、十分な指導ができなかった。 ・1年生の目的意識が、学科の選択を重要視し、自らの将来への目標や具体性に乏しく進路目標を先延ばしする傾向が希望調査結果より感じられた。
４ 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「キャリアパスポート」導入担当が、どの分掌でも「大工未来手帳」の活用と必要性向上を目指す。 ◇基礎力診断テストの実施のため、関係教科と連携および事前学習の準備期間を確保する。 ◇生徒が進路選択をする上で、現状認識と向上心のある目標とのミスマッチがないように促す。

５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・授業中や様々な教育活動において、大工未来手帳を活用できるように全職員に協力依頼し推進に努める。 ・基礎力診断テストの結果が進路選考基準の対象となることを周知し、事前学習の取り組みを、学科や担任へ協力依頼して基礎学力の向上を目指す。

６ 目標の達成に必要な具体的な取組	７ 達成度の判断・判定基準あるいは指標
①大工未来手帳の活用推進を学年会で依頼する。 ②基礎学力向上を目指すため、「ワンウィークトライアル」を早期に配布し、リピート学習できる期間を設けて取り組みの向上を図る。	❶「大工未来手帳」の活用状況調査 ❷基礎力診断テストの結果分析 基礎学力教材の到達度 進路内定率１００％へ向けた達成度

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０評　価
①手帳の活用を学年会等で職員へ依頼する予定だったが、コロナ対策の影響もあり不十分だった。	①「大工未来手帳」の活用度	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ⓓ
②基礎力診断テストに向けて事前学習教材を早めに配布し、学習時間を確保することができた。	②基礎学力事前学習教材の活用度	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ
③進路希望に対する適切な指導がある程度できた。	③進路選択先の合否状況	Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｄ

１１成果課題	総合評価
○今年度の求人状況は、令和元年度より増え、就職希望者の１次試験での不合格率は、５.４％(公務員を含む)と極めて少なく、例年並みに収まった。 ○コロナ禍においても本校のキャリア教育を進めていくため、オンラインによる方法で実践した。 △基礎力診断テストの事前学習の時間は確保でき一部効果があったが全体的には、まだ不確かである。 ▲「大工未来手帳」を活用する生徒が少なかった。 ▲進学者の希望先が、今年も「入りたい」ではなく「入れる」が中心になっていた。	Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ

令和４年度
１２　重点項目
◇「キャリアパスポート」導入の方向性と担当部署の明確化および「大工未来手帳」との関連付けを推進する。 ◇基礎力診断テストの実施後の追跡調査と基礎力向上のための事前学習への取り組みの向上を目指す。 ◇具体的な進路目標を2年次後半には見つけ、自分の希望に適した進路選択を促す工夫をする。
１３　具体的実践内容
・「キャリアパスポート」の導入で、「大工未来手帳」＝「キャリアパスポート」となるように手帳の内容をよりよいものになるよう検討し工夫を加え、社会人基礎力の育成に繋げることを目指す。 ・インターンシップの時期やあり方の検討や工業科との連携で現場・企業見学等の実施を図り、専門高校である本校ならではのキャリア教育を実践していく。 ・基礎力診断テストの実施に対する生徒と職員の意識を高め、生徒実態に合わせた基礎学力の向上を図る

２　評価する領域・分野	◇保健・健康管理
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	新入生に関しては、入学時の健康調査より健康状態、既往症等を確認することで配慮すべき事項の確認。全校生徒を対象に行われる各種健康診断及び４月・８月・１月に長期休業明けの健康調査を通じて、自らの健康状態を知り、ケアできる力を身に着けることができるよう支援を行う。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生活習慣の確立（特に歯科・体格異常に関する指導）と体力の向上 ◇様々な感染症予防に対する予防的行動の推進

	◇健康安全に関する教育の推進と事故の未然防止 ◇集団行動の徹底 ◇職員厚生の充実
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健委員会　　・校内保健委員会 ・保健体育科科内会議（養護教諭参加） ・所属（安全衛生）委員会

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
①自己の体力等を把握し、適正な運動実践を通して体力の向上に努める。 ②検診の事後指導の工夫。歯肉炎予防アプローチの継続、体格異常生徒への指導、保健だよりの発行、各種学校行事の機会を通して、全校生徒と職員に、健康に関する情報提供に努める。 ③感染症予防行動（人との距離の確保、マスクの着用、手洗いの励行）を呼びかけ、徹底を図る。 ④学校行事や全校集会（オンライン集会）等において、生徒に秩序ある行動を心掛けさせる。 ⑤職員研修会の内容の充実	❶保健室利用状況や体力テストの結果 ❷健康診断の結果、事後措置実施状況 ❸各種感染症の罹患者数 ❹集合整列に要する時間等の生徒の姿 オンライン集会における視聴態度 ❺研修会などへの参加人数

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10 評　価
①生徒一人一人の能力・適性に応じた指導内容の徹底。	①適正な運動実践を通して体力の向上ができたか。	A Ⓑ C D
②歯科ハイリスク個別指導は、感染対策を踏まえ（染め出しやブラッシングは実施せず、事前アンケートや健診結果をもとに個々に合わせた歯科保健指導を準備）工夫して実施。	②健康に対する意識を高めることができたか。	A Ⓑ C D
③ＳＨＲや昼休の放送等を利用し、感染症予防の知識を持たせ、予防行動を強化した。（感染予防の環境づくりとして、教室にCO_2モニターを設置し換気意識向上に努め、アルコール消毒液や液体石鹸をすべての個所に設置した。）	③感染予防対策を重視・徹底することができたか。	A Ⓑ C D
④生徒に集団行動の徹底を促した。	④集団行動の必要性を理解できたか。	A Ⓑ C D
⑤定期考査中に職員研修会を実施した。	⑤職員間の親睦と活性化を図れたか。	A B C Ⓓ

11 成果・課題		総　合　評　価
	○新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、実施すべき各種健康診断においては、実施日、実施方法の変更など余儀なくされたが、感染リスクに対処しながら、適切に実施することができた。 ○新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されたことにより、学年閉鎖、学級閉鎖等が行われ、濃厚接触者と判断されたクラス、部活動の生徒がPCR検査を受けたが、すべて陰性で、日頃の感染防止対策が効果を発揮したものと評価できる。 ○昨年度に続き2年連続で、大垣市歯科医師会より歯科健診結果及び歯科保健活動が評価され、大垣市歯の優良学校　高等学校１位、岐阜県学校薬剤師会より学校環境衛生　優秀活動校に認定された。 ▲コロナ禍での行動制限のある生活において、運動機会等が激減し、体力の低下が心配される。 ▲職員間の親睦・メンタルヘルスケアを目的とした研修会を実施することが	A Ⓑ C D

	できなかった。	

令和４年度
12　重点項目
◇感染症対策の強化　新しい生活様式の確立。 （人との距離の確保、マスクの着用、手洗いの励行、換気、黙食、自らの体調管理の徹底） ◇健康的な生活習慣の確立　「歯科」に関する指導については、継続して取り組む。 ◇校内の環境衛生活動により改善を試みる。
13　具体的実践内容
・一人ひとりが基本的な感染対策を身につけ、自らの体調管理の徹底を図る。 ・中等度以上の肥満生徒に対して、個別保健指導を行う。 ・学校環境衛生活動の充実（空気環境、照度測定、水質検査、温度管理等）

2　評価する領域・分野	◇工業
3　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	⑴地域連携事業、出前授業、ものづくり大会などでの多面的な活動により工業高校・工業教育への理解や関心が、地域の方々に浸透している。 ⑵大垣市、地元企業、地元教育機関などとの連携により、主体性を持 って活動できる学びの場が設けられ、実践力、協調性を多くの生徒が身に付けている。 ⑶ものづくりの競技大会で全国大会への出場や、県大会１位などの優秀な成績を収めることができた。 ⑷コロナ禍にもかかわらず、多くの出前授業の依頼を受けている。
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	⑴教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。 ⑵大垣市、地元企業、教育機関等と連携を今後も継続し、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。 ⑶出前授業やものづくり体験等の企画運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への興味関心を高める。 ⑷本校入学志願者の増加に向け、広報活動に注力する。 ⑸これまでの本校における取り組みを継続しつつ、SDGs の視点を有するグローバル人材を組織的に育成する。
5　重点目標を達成するための校内における組織	事務部長 ↓ 校長 ── 教頭 ── 工業部 ── 学科主任会 ┬ 研究指定事業 ↑　　地域資源を活用した専門的職業人の育成事業 教務主任　　中長期インターンシップ事業 生徒指導部長 ─ 課題研究担当 進路指導部長 ─ 資格試験担当 産振設備備品担当 テクノコラボ担当 工業庶務 ┬ 渉外（外部との窓口） 会計（工業諸費関係） 広報（広報委員、学校PR、HP、報道、記録誌 ） 行事（地域主催イベント支援、中学校教員向け見学会） 地域連携（大垣市、東海職能、たくみアカデミー　） ふるさと教育

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
⑴研究指定事業「中長期インターンシップ」の取り組み。 ⑵充実したＩＣＴ機器の利活用研究と共に地元	・各行事に参加した生徒の反応と感想 ・各行事における参加者(地域住民など)の反応と感想 ・新聞記事などの掲載回数

企業や地域諸団体との連携による国際理解教育に関する取り組み。 (3)研究指定事業「地域資源を活用した専門的職業人の育成事業」の取り組み。 (4)中学生１日入学や高校見学会の実施。併せてパンフレットなどの配布物の更新。 (5)各学科の魅力ある取組内容や生徒が活躍する姿のホームページへの積極的な掲載。	・本校ホームページへの記事掲載数	
8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10 評　価
(1)研究指定事業「中長期インターンシップ」 ①事業所など見学(一年生対象) 建設工学科群：岐阜県新庁舎建設工事現場、鉄嶺トンネル工事現場 機械工学科群、電気・電子工学科群、化学技術工学科：中止 (2)研究指定事業「地域資源を活用した専門的職業人の育成」 ①講話「地元企業が期待する大垣工業高校」 講師：太平洋工業(株)竹中拓也様、イビデン(株)小川泰弘様、(株)久保田工務店　久保田智也様・ドングルズ様 ②資格取得指導環境の構築 機械保全、電気溶接、産業用ロボットなど ③教員の技術指導力の向上 電気溶接、フライス盤、電気工事など ④協働活動 テクノコラボレーション、岐阜工業高校ものづくり教育プラザの活用、大垣まつり𨻶行事「浦島𨻶」整備、第19回大垣市こどもICT講座 (3)本校魅力発信に関する活動 ①出前授業 依頼を受けた西濃地区中学校３校において出前授業を実施した。 ②高校見学会 7月27日(火)～29日(木)に実施した。41校から中学生570名の参加があった。 ③オープンスクール 本校初となるオープンスクールを11月27日(土)に実施した。27校から中学生147名の参加があった。 ④中学校が主催する進路説明会 教務部と連携し、中学校主催の進路説明会に学科主任が複数参加した。 ⑤SDGsに関連する取り組み 岐阜県「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークに５件の活動を報告した。外部SDGｓイベント２事業において本校の活動報告を行った。 ⑥各学科群及び各学科が本校ホームページNEWS欄の投稿により近況報告を行った。 (4)岐阜県工業高校生ものづくりコンテスト	(1)生徒の職業意識を高めることができたか。 (2)豊かな地域資源を認識することができたか。 (3)資格取得に対する意欲を高めることができたか。 (4)技術指導力を高めることができたか。 (5)生徒に実践的なコミュニケーション能力が、身に付いたか。 (6)地元中学生の工業高校への興味関心を喚起できたか。 (7)地域住民の本校への興味関心を喚起できたか。 (8)本校HPへの投稿は昨年度より増加したか。	A　B　Ⓒ　D Ⓐ　B　C　D A　Ⓑ　C　D A　Ⓑ　C　D A　Ⓑ　C　D Ⓐ　B　C　D A　Ⓑ　C　D Ⓐ　B　C　D

入賞結果 【最優秀賞】旋盤・測量【優秀賞】旋盤・電気工事【敢闘賞】メカトロニクス・電子回路組み立て【奨励賞】電子回路組み立て【国際たくみアカデミー校長賞】木材加工・化学分析		
11 成 果 ・ 課 題	○岐阜県ものづくりコンテストにおいて県１位に相当する最優秀賞や、優秀賞・敢闘賞などの優秀な成績を数多く収めることができた。 ○これまでの出前授業の継続実施が定着し、中学校における活性化事業実施時に多くの要請を受けることができた。 ○地域諸団体との連携活動を実施し、地域住民に本校の取り組みが周知された。新聞や情報誌での記事掲載も効果的であった。 ○本校ホームページNEWS欄への投稿が活発化した。 ▲コロナ禍の影響による事業の延期・中止を受け、専門高校ならではの教育機会を複数回逃した。次年度は現況を鑑みた事業計画が必要である。 ▲ＳＤＧｓを導入する企業が拡大している現況を鑑み、教科横断的な指導体制を確立する必要がある。	総　合　評　価 Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｄ

令和４年度
12　重点項目
(1)教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。 (2)研究指定事業を活用し、大垣市や地元の企業・教育機関等と連携を今後も継続し、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。 (3)出前授業やものづくり体験等の地域との連携活動運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への興味関心を高める。 (4)本校入学志願者の増加に向け、広報活動に注力する。 (5)これまでの本校における取り組みを継続しつつ、SDGs の視点を有するグローバル人材を組織的に育成する。
13　具体的実践内容
(1)研究指定事業地域の担い手育制総合戦略事業「地域資源を活用した専門的職業人の育成」・「中長期インターンシップ」に関する取り組み。 (2)「中学生と高校が共に学ぶキャリア支援事業」に関する取り組み。 (3)外部の支援を受けて実施する企業見学会や上級学校の見学会などの実施。 (4)テクノコラボレーション、地域諸団体との連携事業、出前授業、SDGsを題材とした外部機関との連携などの継続実施。 (5)ＩＣＴ機器の利活用研究(国際際理解教育を含む)。 (6)中学生１日入学や高校見学会での体験内容を充実する。併せてパンフレットなどの配布物作成に積極的に取り組む。 (7)各学科の魅力ある取組内容や、本校の生徒が活躍する姿を外部へ広報できるように、ホームページへの掲載を積極的に行う。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日　令和４年２月９日

・教務部の自己評価については、アンケートの取り方が昨年度までの方法と異なる手法を用いたため、従来の結果との差が際立っている。アンケートの実施時期、実施方法などを再検討し、次年度の調査をすすめる。また、コロナ禍のため学校の取組や現状などを保護者に直接伝える機会が減少しており、それに代わる情報提供の在り方を工夫してほしい。 ・コロナ感染により長期間、登校できない生徒に対してはオンラインによる授業配信を行うことがあるが、実習など教室を離れて実技を伴う科目も多いため、短期間の場合は行っていないのが実情である。学年閉鎖や学級閉鎖が発生した場合は、オンライン授業を展開している。オン

ラインを開催できるチャンネル数の制約もあり、可能な範囲で実施できるとよい。
・いじめやメンタルヘルスケアなどについては、これまで通り、組織できめ細やかに対応していけると良い。
・授業やオンラインでの集会の機会などをとらえ、「生命」を大切にする話や、交通マナーの向上などについて話かけてほしい。
・大工未来手帳の活用を推進し、手帳を役立てられるよう指導を推進する。進路指導部に限定せず、各学科での指導、担任による使い方指導をすすめる。
・１年生に対して、先輩たちの就職先などの情報を提供してほしい。
・企業によってコロナ禍での対応状況が異なるため、インターンシップの受け入れ可否も異なるが、状況に応じた対応を次年度も相談し、実施に向けて推進してほしい。
・地元の中小企業について情報提供や離職についての話は学科が中心となって伝えてきているが、今後も情報収集を行い、生徒へ情報を還元していく。
・ものづくりの競技大会や各コンテスト等への取組や、市や地元企業、教育機関と連携しての取組を推進できると良い。ものづくりの技術の伝承を継続してほしい。
・個々に寄り添い信頼関係を構築し、企業が求める人材教育を推進する。
・社会ルール、マナーについて意識させ、自立、自律した社会人になるように手厚い指導を行う。
・課題研究は今後も学科の特色を生かした研究テーマを設定するとともに、モノづくりを通して人づくりを推進し、コロナの状況に応じた発表方法を模索し多くの関係者に見てもらえるようにするのが望ましい。